

事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 25 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		戦没者追悼式関係事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	古武城 卓
	施策	16	高齢者・障害者の自立促進と社会参加			所属課	福祉課	担当者名	狩野紀彦
	基本事業	47	高齢者の社会参加の促進			所属班	社会福祉班	(内線)	2136
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	合志市契約事務規則	
		1	3	1	1	10429			
終了、開始年度		☒ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)			
						成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	①先の数々の大戦等で戦死した戦没者に対し、慰霊祭を行う際の祭壇設営委託料。平成20年度より追悼式と名称を変更する。 ・国の命により出征し命を落とした戦没者の魂を慰めるために慰霊祭を始めた。平成20年度より名称を追悼式とした。 ・遺族間の情報交換や援護政策の周知徹底を行い遺族の福祉の増進を目指し遺族会が結成された。 ・遺族も高齢化が進み、慰霊祭に参加することが困難な人たちが増えてきた。 ・戦没者の子、孫と世代が代わるにつれ、戦争の悲しさや悲惨さを語り継ぐものが減ってきており、戦争は過去のものという考えも出てきている。 ②合志市戦没者慰霊祭の開催時期、開催方法等が異なり、10年度においては5月に総合センターで、21年度は合志市総合センターで実施し、祭壇の設営委託料を支払った。
【業務の流れ】	追悼式 ①葬儀社に対し、追悼式祭壇の設営委託料に関する見積書を徴す②開礼し、最低価格見積業者と契約を交わす③会場設営及び撤収(祭壇意外の部分)
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	・戦争によって失った家族や友人は帰ってこない。この辛い出来事を後世に伝えたい。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
・合志市御代志市民センターで開催予定。委託契約は20年度同様。 ・H20は合志市総合センターウィーブルで慰霊祭を実施し、祭壇の設営委託料を支払った。	平成22年度より戦傷病者等支援事業に統合し、効率化を図る
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
⇒ア 追悼式出席者数	人
⇒イ 遺族会との追悼式打ち合わせ回数	H
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
・慰霊祭祭壇の設営委託料を支払った。	⇒ア 遺族会員数 人
	⇒イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
①戦没者遺族	⇒ア 追悼式へ遺族会の参加率 %
②合志市遺族会	⇒イ
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠	

(2) 各指標・総事業費の推移											
		単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込		
④ 活動指標	ア	人		250	250	162					
	イ	H		4	4	6					
⑤ 対象指標	ア	人		200	200	200					
	イ										
⑥ 成果指標	ア	%		60	60	60					
	イ										
投資入量	事業内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円		105	300	126				
	(A) 事業費計		千円	0	105	300	126	0	0	0	
	(A)のうち指定経費		千円								
	(A)のうち時間外、特勤		千円								
	人件費	正規職員従事人数	人		3	3	3				
		延べ業務時間	時間		60	60	60				
		(B)人件費計	千円	0	240	239	239	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)			千円	0	345	539	365	0	0	0	

総トータルコスト
全体計画
～ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)
0
0
0
0
0
0

合志市

事務事業名	戦没者追悼式関係事業	所属部	健康福祉部	所属課	福祉課
-------	------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】	御代志市民センターで安全面を考慮して固定での開催を協議。遺族会からの了承を得る。平成22年度より戦傷病者等支援事業に統合し、効率化を図る
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】	平成22年度より戦傷病者等支援事業に統合し、効率化を図る
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】	①出席率:旧合志・西合志で会場を交互に開催していたが固定化することで、参加者の安全性を確保する。②福祉の向上は図れている。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	他に類似する事業がない。遺族も高齢化してきており、県主催の追悼式等には出向けない人が多い。また、県主催の場合、参加人数が制限される恐れがある
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	対象者も高齢化しており、遺族会のみでの追悼式の開催は困難である。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	早めに遺族会との協議を行うことにより、追悼式自体の円滑な実施が行われる。遺族会が活動しやすい方策をとる事により削減が図られた。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	戦没者に弔慰、慰藉を示すことは、市民の不戦の誓いにもつながり、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】	

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

平成22年度より戦傷病者等支援事業に統合し、効率化を図る。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☒ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善(有効性改善)

☐ 事業のやり方改善(効率性改善)

☐ 事業のやり方改善(公平性改善)

☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

平成22年度より戦傷病者等支援事業に統合し、効率化を図る。

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

・高齢化が進む団体への支援の内容と方法。遺族の高齢化は避けられず、市のバスの活用が望まれる。

・開催時期、開催場所、開催方法等について遺族会と早めに協議を行うことで、追悼式の円滑な実施を図る。平成21年度については5月15日(金)開催で協議済。市長・議会への調整済。